

●第10回教科等指導力養成講座

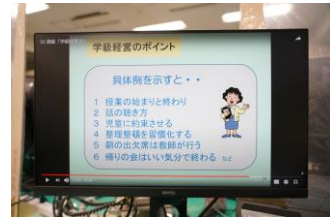
令和3年9月18日（土）に第10回教科等指導力養成講座を行いました。動画配信とビデオ会議システムの活用による開催となりました。

高瀬智子主任指導主事の挨拶では、オリンピック・パラリンピックのメダリストの話为例に、「学び続けること」と「謙虚な姿勢と感謝の気持ちをもつこと」の大切さについて、お話がありました。

1 主な講座の内容

【全員共通】オンデマンド配信動画「学級経営③」

養成塾担当教授による学級経営計画の作成と支持的風土のある学級経営についての講義を受けました。学級経営計画の作成に当たっては、学校経営方針や教育目標を踏まえながら、児童・生徒の実態に合わせて学級経営計画を作成することが大切であるということ学びました。また、支持的風土のある学級経営を行う上で、教室環境と言語環境を整えることが重要であるということについても学びました。



【小学校コース】「特別活動②」

当番活動、係活動、学級活動（3）の内容について、養成塾担当教授による講義と演習を受講しました。演習では、塾生が当番活動と係活動の違いを考え、それぞれの果たす役割について学びました。

「学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」では、授業実践の事例紹介により、学期始めや終業式、行事等の節目を活用して、なりたい自分を思い描き、成長を自己認識することが効果的であることや、キャリア・パスポートの活用方法について学びました。

【特別支援学校コース】「自立と社会参加」

ビデオ会議システムにより、特別教育実習の体験や実践の報告を交えながら、自己肯定感を高めるための指導計画や、授業中の称賛の仕方について考えました。

社会参加に向けては、障害の状態や、発達の段階、児童・生徒の実態に応じて、関係機関と連携する必要があり、ライフステージに応じて連携する機関は異なることや、確実な引継ぎによる切れ目のない支援が重要であるということ学びました。

【全員共通】オンデマンド配信動画「塾生に期待すること」

教職員研修センター研修部教育開発課の板澤 健一課長から、来年度、教師となる塾生たちに向けて、「子供のための教師になる」、「正直になる」、「謙虚になる」、「学び続ける」という4つの話がありました。

養成塾での1年間の学びに自信をもつことと同時に、社会の変化に対応した指導ができるよう、謙虚な姿勢をもち、学び続けることが重要であるということ学びました。



2 塾生の感想より

学級経営③	<ul style="list-style-type: none"> 今のうちから学級の環境づくりを具体的に想定しておこうと考えた。1年生と6年生の教室では、対応や工夫点は全く違って来る。今後のボランティア活動などで多くの学級を見ていき、どの学年の担当になっても対応できるように準備を進めたい。
特別活動②	<ul style="list-style-type: none"> 班別協議で、「高学年では、自己開示できない児童や夢がないという児童がいる。」という意見が出た。誰もが、将来に希望を見いだしているわけではない。そのことを私は見落としていたと反省した。児童に寄り添った上で学級経営や授業づくりを行っていく中で、児童が自己開示できるように、声かけや支援をすることが、大切だと考えた。
自立と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていき、やりたい、挑戦しようと思えるような指導をしていきたいと思った。児童・生徒が様々なことに取り組めるようにしていき、可能性を広げていきたいと思う。
課長講話 「塾生に期待すること」	<ul style="list-style-type: none"> 教師がもつべき心構えを学ぶことができた。具体的には、児童のための教師になること、正直になること、謙虚になること、学び続ける全てが、教師において必要であると分かった。特に、失敗を児童にもしっかりと見せることが、午前中に学んだ学級経営にもつながると気付くことができた。

●その他の講座について

○ 塾生同士の授業参観

東京教師養成塾では、教師養成指定校の御理解、御協力をいただきながら、塾生同士の授業参観を行っています。

塾生同士が授業を参観し、参観後には授業についての協議を行う中で実践的な指導力の一層の充実を図ることを目的としています。

授業後の協議では、発問や児童・生徒への言葉掛け、教材の提示方法やタイミング、話し合い活動等、授業改善の視点から塾生が意見を交わしながら、協議を深めています。同じ塾生の授業を参観することで、自身の授業改善に生かそうとしたり、特別教育実習に向けた意欲を高めたりすることにつながっています。



<塾生による授業参観の様子>



<授業後の協議の様子>

○ 特別支援学校等の施設見学

都立特別支援学校等に御理解、御協力をいただきながら、学校施設見学と管理職による講話及び施設見学を行っています。(第18期は、知的障害特別支援学校2校、ろう学校2校で実施)

塾生が学校施設見学を通して、特別支援学校等の教育活動の取組や児童・生徒の発達段階に応じた指導等への理解を深めるとともに、学校教育に対する視野を広めることを目的としています。

施設見学与管理職による講話では、個に応じた指導方法や教材の工夫、教室環境の整備について学びました。特別な支援を必要とする児童・生徒への様々な支援について学ぶことで、指示の出し方や座席配置の工夫、板書の在り方等、自身の授業づくりの課題を明らかにすることにつながっています。



<施設見学の様子>



<講話後の塾生謝辞の様子>

【塾生の感想より】

塾生同士の 授業参観	<ul style="list-style-type: none"> 他の塾生の授業を参観することは初めてだったので、自分の授業と比較することができた。協議会は、自分が授業をしたときのように、とても充実していた。自分が見つけられなかった改善点やこれからの授業づくりのことも学ぶことができた。タブレットを使う場面がなかなかないので、次回の授業研究でタブレットを使用した授業を行いたい。
特別支援学校等の 施設見学	<ul style="list-style-type: none"> ろう学校の見学と講話を通して、児童への指示の出し方や立ち位置について学んだ。ろう学校では、全員がお互いに見える馬蹄形という座席の配置の工夫を知ることができた。通常の学級に置き換えると、常に児童全体が見える場所に立つ工夫をすることである。特に危険を伴う体育や理科の実験、実技等の際には気を付けていきたい。また、今後は、見やすく分かりやすい簡潔な板書も心掛けていく。